2020年（令和２年）４月１日
くげぬま探求クラブ

会報　くぐひ

第101号(春号)

◇　くぐひ（鵠）は白鳥の古い呼び名。鵠沼には昔たくさんの白鳥が飛来したことによる　◇

一年を振り返って

世話人代表　奥村 誠

世話人代表に任命され一年が経過しました。なんとかやってこられましたが、世話人、クラブ員皆様のご協力あっての賜物で感謝致しております。

当初、前世話人代表の玉田さんから、詳細な引き継ぎ書面と説明を頂いたのですが、あまり頭に残らないままのスタートになりました。

一番、当惑したのが我がくげぬま探求クラブと地域社会との関係、位置づけといったものです。当クラブと外部との接触は各部会でも持っている訳ですが、クラブの代表として接しなければならないケースもある訳です。世話人を任命される前は、おぼろげにそのあたりの関係を知る程度で世話人代表になって、ようやく分かるようになりました。

ご存知のないクラブ員もおられると思いますので、本紙面を借りてご紹介したいと思います。

当クラブが所属している組織に「鵠沼公民館サークル交歓会」があります。鵠沼公民館を活動の場としているサークルは基本的に「交歓会」のメンバーになる必要がありますが、当クラブは規模的にも主要メンバーになっており、世話人代表は自動的に交歓会の役員になります。この交歓会はジャンル別に７つの部門分けがされており、当クラブは「社会活動部門」に属しています。会合は役員会と全体会がそれぞれ年に４回開催されます。

当クラブの歴史的にも一番関わり深いのが「鵠沼公民館まつり実行委員会」です。探求クラブの世話人代表は自動的に実行委員になります。実行委員の構成メンバーは非常に多くの団体で構成されています。例えば、サークル交歓会、鵠沼地区社会福祉協議会、鵠沼郷土資料展示室運営委員会、鵠沼地区ボランティアセンター「ささえ」、鵠沼公民館評議員、等々です。実行委員会も８つの担当部に分かれており当クラブの世話人代表は「展示・制作」部門の役員になっています。公民館まつりは10月ですが、第１回の会合は５月に始まり、会合を重ね、公民館まつり終了後、12月の反省会とアルコールの入った打上会で終わります。

新春になると「鵠沼地区賀詞交換会」が公民館で行われます。交換会は鵠沼地区社会福祉協議会、鵠沼地区町内会自治会連合会、鵠沼公民館サークル交歓会等が主催者で、鵠沼地区の200人位の方々が集まる盛大なものです。サークル交歓会の役員である当クラブの世話人代表は出席するのみでなく、運営のお手伝いもしなければなりません。ここでも地域の方との交友が広がります。

次にクラブの運営に関してこの１年を振り返ってみます。とにかく忙しくなりました。これは世話人代表の仕事以外に毎月の活動日程表の作成と部会参加予定表の作成を引き受けたのが（自発的ですが）原因です。例会前の4～5日間は忙しく、緊張もします。それでも部会参加予定表の記入はオンライン化したことにより、30名強のクラブ員の皆様に協力いただける様になり、助かっております。また、紹介していませんでしたが、例会やその他の資料はクラウドコンピュータに格納し世話人間で共有化しましたので、世話人間の連絡作業や例会資料作成の効率化が進すんだと感じております。

最後にひとつ提案があります。スマートフォンを所持するクラブ員が増えている様に見受けられます。スマホには電話やメールの他、多様なコミュニケーション・ツールが揃っています。中でもLINE(ライン)は利用者が多くメールとは異なり、手軽さに特徴があり、家族やグループ間でかつて無かったフレンドリーな会話が楽しめます。最近、クラブ員間の新しいコミュニケーションの場として、LINEを利用した「くげ探広場」を開設しました。部会の枠を超えた親睦の輪が広がると思います。新しい世界に飛び込んでみませんか。サポートいたします。

地域活動部会紹介

鵠沼松が岡公園愛護会

鵠沼松が岡公園のベンチ製作
―初代から数えて 4 代目―

河村 英二

2020 年 2 月、老朽化したベンチの補充に長型のベンチ 2 台を製作しました。

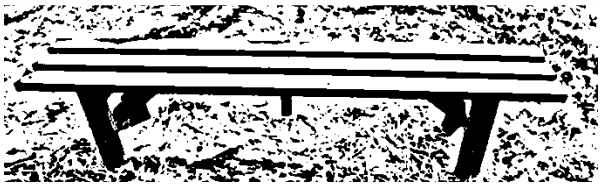
「今回で確か 4 代目では」と、元部会長の鈴木（英）さんのつぶやきに、当時の例会資料＜部会活動状況＞を掘り起こし、エピソードを添えて経緯を辿ってみました。

2009 年 7 月例会資料（永田）では、“初代は、2001 年に、４基のベンチを近所の建設現場の余りの木材で作られた”とあります。鈴木（英）さんの言では、当時の部会長の西野さんが主導して西野さんの庭で作ったとのことです。

2 代目は、2009 年 6 月“市から材料の提供を受け、黒川さんの指揮の下 4 名メンバー（鈴木さん、西野さん、吉津さん、河村さん）で本鵠沼の河野木材店で製作しました”と記述されています。

3 代目は 2016 年 12 月例会資料（萩原）では“2016 年 11 月 2 日長方形ベンチ 2 台と、四方のテーブル 2 台。公民館の協力によりプレカット済みの材料を入手した”とあり、製作の前段階で、河村が現物を測定して図面化し、長谷川さんに例会の席でチェックしてもらった記憶が鮮明に残っています。

4 代目が今回の製作。3 代目の図面を踏襲して、甘利さんが市の予算取り、統括を奥村さん。製作担当の萩原さんは、使用木材（サーモウッド）の選定、道具の準備、当日の製作の指揮。河村は、湘南モールフィルに何度か足を運び最適サイズの材料選定、プレカットする費用を安価にするプランを企画して見積書にまとめ、市の公園課の窓口に提出。公園課の担当は 20 代の若い女性で、要請に快く応じて 1 月 30 日に軽トラを自身で運転して材料を公園に運んでくれました。



親睦研鑽部会紹介

スケッチ部会紹介

高齢化に備えて

鈴木 勝彦

スケッチ部会は約 20 年前に発足した部会であるが、高齢化が進み現在 4 名＋ゲスト 1 名で毎月開催している。気候の良い季節は太陽の日を浴びながら、またそよ風に吹かれながら屋外スケッチを楽しみ、江の島で係留されているカラフルなヨットや遠景の海岸風景などを、また横浜の“山下公園”やいろいろな西洋館が楽しめる“港の見える丘公園”やまた、いろいろな種類のバラが楽しめる平塚の“花菜ガーデン”にも足を伸ばし風景、建物、花などが楽しめる所で絵を描いて楽しんできた。また炎天であったり寒くて風が強くスケッチができない真夏、真冬の季節には公民館内で開き、今まで行ったところの写真を基に絵を描いたり、また気に入った本を参考にした模写など行っている。

最近、寄る年波に勝てず小生を含め腰を痛めるメンバーが増え、なるべく近場で、歩かず、アクセスの良いところで絵を描くようにしている。

このような中で“水彩画”を描きたい気持ちは変わらず「気持ちの良い屋外で水彩画を描こう！もし雨が降ったら公民館で自分のお気に入りの風景を描いてみよう」との思いを新たにして令和 2 年のスケッチ部会の予定を定め、少人数ではあるが、今後も活動を続けるつもりである。

課題は現在のメンバーには水彩画について経験者がおらず、描き方で疑問を感じたときに意見を仰ぐ指導的な立場の人がおらず、“もっとうまく描きたい”と思った時のアドバイス役がいなことを歯がゆく思っている。今後この問題を解決していきたいと考えている。

一緒に水彩画を描く人いませんか？お気軽にお声をお掛けください。

「くげぬま探求クラブ」はあなたの入会をお待ちしています。
「会社人間から社会人間へ」を目指す方々は「発行人の奥村」までご連絡下さい。
ホームページアドレス　http://kugenumatankyuclub.web.fc2.com/
「くげぬま探求」または「鵠沼探求」で検索してください

ビフォア・アフター

動から静へ、そして今。

岸 保宏

現役時代は貿易業務に携わり穀物を扱っていた。産地は米国・カナダ・メキシコと北米を中心に、豪州・ブラジル・アルゼンチン・南ア・インド・タイ・中国など世界に散らばっており、顧客も日本をはじめ台湾、韓国、ヨーロッパと散在していたので責任者としてこうした国々に出張して 1 年の 1/3 は海外にいた。東西冷戦時代、ハンブルグからベルリンに飛び、壁を通って東ベルリンに入り、東ドイツに船一杯の穀物を売りニューヨークに電話を入れるためすぐに盗聴のない西ベルリンに戻った。昔の南アへの出張はアパルトヘイトで日本から直行便が無かったので台湾まで来ている南ア航空の南回り、バンコック、スリランカで給油し日本を出て30時間ほど掛けての出張で着いた時にはぐったり、南ア開放後はロンドン経由の英国航空の北回りで楽になった。インドでは取引先ご令嬢の結婚式に参列したし、タイではクーデターの最中に商談した。北京で買い付けた穀物が集まらず積出港の大連には頻繁に出かけた。買い付けだけでなく豪州へ農業指導の米国農民を連れて出かけもした。海外勤務は米国に 3 回で 13 年。米国からは中南米へよく出張した。

動いてばかりだった人生は退職により終りとし、腰を据えて暮らす生活に入るべく、落ち着ける住み家を探し、湘南が気に入り藤沢市に引っ越して 18 年、一番長くなった。これから住む市に馴染もうと、社会教育委員を 2 年、都市景観審議会委員を 4 年務めた。

地縁がなかった鵠沼に根を下ろせたのは探求クラブのおかげだ。公園活動、健康部会に探訪、ヤンブラにヤングハーツやデジタル部会など探求クラブの仲間とのストレスのない交流は楽しい。

喜寿も過ぎ体力、脳力の衰えを自覚する。夜の遠出や会食は断り、ゴルフも近場でカートに乗ってのプレイ。英語の学習支援は続けているが辞書での確認の作業が増えた。仲間や家での会話では固有名詞が出ず、あれこれや、あの人でも、楽しくおしゃべりが続く不思議。齢相応にものを忘れ、世に忘れられるのは致し方ない。自然の流れに逆らわず、たそがれて行く人生でいい。

ヤングハーツ 一直線

鈴木 実

ビフォア・アフターという言葉から連想されるものに、美容や健康食品等の使用後の効果を比較した写真で、これほんとかナという感じのものがあります。その一方で明らかに変わっているものがあります。以前テレビで、使用勝手の悪い旧い家を大改造するという番組がありました。建て替えちゃった方が早いんじゃないかと思われるくらいに改造しますので当たり前です。改装なった家に帰ってきた家族のうれしそうな顔、驚きの顔、感激のあまり涙した顔などのリアクションが売りの番組で最後は設計した建築士との対面で終わるというものでした。私の場合はどうだろうかと考えてみますに、どうやら前者のようです。いまのところ劇的なアフターではないからです。

入会当時、毎日が日曜日の連続の中、自己流で始めた趣味のウクレレに力を入れようと音楽教室に通い始めた頃でした。クラブのチラシの中にヤングハーツの紹介があり、自分でもできそうだし、やってみたいなという思いで入会しました。ボランティアのボの字も知らずただ好きな音楽がやれるということだけが頭にありました。すなわちボランティアがしたくて入ったのではなく、音楽がやりたいから入ったのです。まったく動機が不純ですよネ。クラブの憲章にすすんで地域のボランティア活動をしますというのがあります。それを見てボランティアって何だろうという思いから遅まきながら少しずつ興味を持って接するよう心がけています。ボランティアの観点からヤングハーツの活動を見るにつけ、素晴らしいグループに入っていることに気が付きます。活動後の充実感、達成感、連帯感等まさに現役時代に味わったことがここでもまた感じられます。まさにヤングハーツです。しかしすべてに満足しているわけではありません。活動が自己満足になっていないだろうか、そして相手のニーズに応えているだろうか、勝手な押し付けになっていないだろうか悩みは尽きません。この悩みとか緊張感が私たちを支えているような気がします。いまヤングハーツで楽器を担当していますが、しっかりと演奏し、ボランティアだからしょうがないネと思われるようなバンドではあってはならないと心がけています。まずは各自が担当している立場をしっかりと自覚し確実に責任を果たせるよう研鑽したいと思います。一つ一つは小さなことではありますが、そこから大きく成長できるようヤングハーツひとすじで・・・！

豆まき大会開催

塩川 昌男

2月1日（土）にひょっこり鵠南島にて豆まき大会を実施。子供35名のほか鵠南小の校長、探求クラブ、児童館、ぽんたの会など23人が加わり恒例の豆まき大会が行われた。校長先生の挨拶に続きぽんたの会のスタッフによる紙芝居や絵本の読み聞かせが行われた。続いて、子どもたちに画用紙が1枚ずつ配られ、自分の手形を使って鬼を描き目や牙も描きいれて熱心に仕上げていった。

その後スタッフたちの扮した鬼が会場に現れて子どもたちを追い回した。中には泣き出して母親にしがみつく子もいて大さわぎであった。子供たちが新聞紙で作った紙つぶてを投げつけて鬼を退治させた。最後に豆の代わりにキャンディを蒔いて終了となった。

私こういうものです

新入会員の自己紹介です。会員数は54名になりました

佐々木 裕一さん

昨年の12月に、入会させていただきました「佐々木裕一」と申します。1940年生まれですので、かなり高齢からのお仲間入りとなります。

今まで、ゴルフ、囲碁、水彩画、スポーツ吹き矢、剣道などで老後の生活を送って来ましたが、70歳頃から、やはり音楽を一本として趣味を集中して楽しむ事にしました。

昨年までは、藤沢の音楽教室に6年間、作曲の手ほどきを受けていましたが、アンサンブルでお仲間と楽しむことが夢でしたので、この度「ヤングハーツ」に加えていただきました。家では、主にピアノを弾いていますが、高齢のため一向に上達しません。

どうぞ宜しくお願いします。

小川 隆さん

鵠沼生まれで鵠沼育ち、鵠沼小学校・鵠沼中学校を卒業しました。

学業と仕事で静岡・札幌・東京等でおよそ50年間を過ごしましたが、仕事が一区切りついたことを機に昨年4月に故郷の鵠沼に戻ってきました。

約40年間、民間の気象情報会社で主に外航船舶向けの海洋気象とテレビ、ラジオ向けの放送気象業務に従事してきました。

久米宏さんが活躍された初期のニュースステーションや開局時のＦＭ横浜等で気象解説を担当させて頂いたことは楽しい想い出です。

その他、短期間ですが市町村や大型娯楽施設向けの防災気象も担当しました。

この関係で当クラブの「災害研究部会」に興味を持ち、何かお役に立つことがあれば…と考え参加をさせて頂くこととしました。

クラブの紹介資料には楽しそうな親睦研鑽部門が沢山並んでいますが、これまで続けてきた武術の稽古や趣味の集い等があり、現在はなかなか自由に時間が取れません。少し落ち着いた段階で当該部門にも徐々に参加し鵠沼を楽しませて頂こうと考えています。

全くの下戸ですが食べるのと騒ぐのが大好きな人間です。

宜しくお付き合いの程、お願いいたします。

クラブ短信（その１）

新型コロナウイルスの感染拡大で、3月の月例会資料がパソコンメールで配信された。

アドリア海・エーゲ海クルーズ

小山 和彦

昨年 10 月に、大腸がん手術一周年記念ということで念願のクルーズ旅行に行ってきた。

ベニス発着でイタリア半島に沿ったアドリア海とギリシャのエーゲ海を周遊する 8 日間のクルーズである。

船は“MSC マニフィカ号”。95,000 トン、16 階建て、客室数 1,250 あまり、乗船客・乗員併せて 3,000 人超という大型クルーズ船である。ちょうどこの 2 月に新型コロナウイルスでメディアを賑わせたあの“ダイヤモンド・プリンセス号”とほぼ同じ大きさの船である。

船内には 5 つのレストラン、9 つのラウンジ＆バー、カジノ、ディスコ、スパ、フィットネスセンター、1,000 人収容の大劇場に加え、屋外・屋内プールとジャグジー、免税店、ボウリング(2 レーン)、ゲームセンター、キッズランドがあり、さらに一日中あちこちでイベントが催されていて乗船客を飽きさせない。

クルーズの特徴の一つは航海中全ての食事代が料金に含まれているということだ。朝食・昼食はビュッフェレストランで好きなだけ食べられる。イタリアの船会社なのでふんだんに提供されるパスタ料理は好みの味で美味しかった。夕食は指定されたメインレストランでのフルコースとなる。メニューは毎日変わり、オードブル、メインディッシュ、デザートとも 3～4 種類から選べ、追加で頼んでもいい。飲み物はこの船では別料金となっていた。飲み放題チケットが売られていたが高くて同室者の分も購入せねばならないのでその都度精算にした。

夜、成田からエミレーツ航空で出発、途中ドバイで 5 時間の乗り継ぎを経て 20 時間あまり、ベニスに午後着。翌朝、乗船前にベニス市内を観光。バスで港まで行って観光船に乗り換えるのだが、港には大型クルーズ船が 7～8 隻ずらりと並んでいて壮観。そのクルーズ船の乗船客がわんさか市中に出ているので中心のサンマルコ広場は大混雑。観光客が多すぎて弊害となるオーバー・ツーリズムを目の当たりにする。(そういう私もその片棒かつぎではあるのだが・・・)

船は夜になってベニスを出港、イタリア半島に沿ってアドリア海を南下。最初の寄港地バーリから世界遺産アルベロベッロを観光。石板を積み上げた円錐形の丸屋根がおとぎ話の家のようでかわいい。

翌朝にはエーゲ海に入る。カタコロン港からオリンピアの遺跡や聖火の採火台などを観て回る。この号が出るころにはここからスタートした聖火が日本国内を回っているだろう。

船は島々を縫って進み早朝サントリーニ島に着く。興奮からか暗いうちに眼が覚めて洋上に昇る真っ赤な太陽を見ながら朝食。大きな火山が爆発してその外輪山の崖の上にへばりつくように建つ街を観光する。天気は快晴。真っ青な空に白い街、どこを切り取っても絵葉書になるところだ。ひととおりの観光の後の自由行動では吹き抜けのレストランを探して地元料理の昼食。素晴らしい風景を楽しみながらの至福のひとときであった。

出港 3 日目の夕食はフォーマルでとの案内が入る。持って行ったダークスーツにちょっと洒落て蝶ネクタイなど締めてレストランへ出かける。船によってはタキシードなどの正装が必要なものもあるが、この船はカジュアル船のカテゴリーなのでスーツにネクタイでＯＫだ、

アテネ、コルフ島を回ってから最終寄港地となるモンテネグロのコトルに入る。船はフィヨルド地形でやっと通れるような狭い湾の一番奥へ入って行く。町の真ん前の桟橋からは徒歩で、周囲を城壁に囲まれ 15 分も歩けば一周できる中世にタイムスリップしたような小さな町だ。広場のカフェで行き来する人をのんびり眺めながら一服。午後出港してベニスへ戻った。夜、添乗員からここだけの話ということで「実は台風 19 号のせいで帰りのフライトが危ういのと明朝ベニスは霧の予報が出ていて船が入れないかもしれない。そうなったら大変なことになる。」と打ち明けられる。添乗を経験したことがある者としてはその心中は痛いほどわかるのでそうなったら可能な限り協力すると伝える。結果は、朝やや濃いもやの中を無事入港でき、フライトも問題なく帰国できた。

夜寝たら翌朝は次の観光地という手間いらず、船内施設も至れり尽くせりで楽しめるクルーズ旅行は我々のような年寄りには最適な旅の一つであろう。

（左）ベニス港に停泊する MSC マニフィカ号　　（右）ギリシャ領サントリーニ島 フィラの町からの眺め

米倉貞敏さんが令和２年１月 23 日に逝去されました。（享年 76）
佐々木黎治さんに追悼文を書いてもらいました。

貞敏さんをしのんで

佐々木 黎治

ありがとう柱拭き終え除夜の妻　　貞敏

これは米倉貞敏さんの遺作の一句です。貞敏さんはくげぬま探求クラブにあって、俳句の会「似歌会」をはじめヤングブラザーズ、おもちゃの病院など様々な部会に参加して多岐にわたる活動をしていました。

なかでも似歌会へはクラブ入会と同時に参加し、実名の「貞敏」を（ていびん）と音読して俳号にして、持ち前の細やかな気配りと気さくな人柄で幹事役になり、部会の会報や活動報告など精力的に取り組んでおり、その面倒見の良さから昨年の 10 月から似歌会の部会長に推され、さてこれから・・というときの急逝。76 歳はあまりにも早すぎました。

冒頭の句にみられるように、貞敏さんは非常にやさしい人柄で、奥方を詠んだ句がほかにもたくさんあり、また娘さんの月命日には上田まで毎月墓参りに行っていたそうです。

「生きてますか？」物騒なことを言いながら、月２回我が家を訪ねてくる。俳句の会報が打ちあがったので校正をしてくれ・・・ホームページに上げるので校正してくれ・・・と言って来るのだが、これが待ち遠しくて、ビールを用意していつ来るかと心待ちにしていたが・・・もうその声も聴くことはないんだね。

ある時１冊の本を持ってきてくれました。「朝音読」という本で 16 ポイントぐらいの大きな文字に全部フリガナが振ってある。「あなたは孤老だから話をすることもなく声を出すこともないだろう、ボケないように音読しなさい」という。

ありがとう貞敏さん。　　合掌

天界の句会も宴の句草　　虎山

私の趣味

「スローランニング」

大木 信一

1月 26 日に第10回湘南藤沢市民マラソン大会があった。私は8回目の参加だったが、例年通り「牛のぬいぐるみ」を着て、小雨の降り続く中、10 マイル（16 ㎞）を何とか完走した。

子供の頃から走るのは好きであったが、学生時代に特段陸上競技をやることもなかった。30～50 代は、当時住んでいた埼玉県狭山市の川沿いを、休日に5㎞位歩いたり走ったりする程度であった。60 歳を過ぎ現役サラリーマン生活を終えて地元の鵠沼に戻った私は、8 年前に中学・高校の同窓生（本職はギタリスト）が長後公民館で「スローランニング」という１ヶ月４回の講座を行うと聞いて参加した。

「スローランニング」は、早く走ることより楽しく長く走ることを目的としており、一緒に走る仲間とおしゃべりをしながら走れる位のスピードで走る。しかし、走るからには姿勢（前傾して胸を張る）、体幹（腰を安定）、足の踏出し（前傾して自然に脚が出る）着地（足裏真中から前方）が重要で、4 回の講座で楽しくそれらを意識することができた。中でもこの講座の最大の功績は、参加した仲間 10 数名のランニングの会「湘南しらす」ができたことである。

会のメンバーの中には、以前から湘南藤沢市民マラソンに参加している人や、他のマラソン大会に参加した人がおり、その人達に誘われて私も参加するようになった。その他にも、「湘南しらす」チームとして駅伝大会に参加したりもした。会の仲間たちとは、月２回の定例練習や年１回のランニング合宿など、今でも活動を継続している。この仲間たちのおかげで、スローランニングは私の趣味となったのである。

クラブ短信（その２）

米倉さんの逝去により似歌会の部会長に細田均さんが就任した。

～例会・各部会活動報告～

12月　December

○例会　7日　出席者42名　在籍者56(休会3)名
○行事　①サンタの出前 3日(２+60) 5日(2+40) 7日(3+39) 9日(7+52) ②忘年会 藤が谷市民の家 36名
○世話人・委員会①世話人会4日 ②くぐひ制作部11日10名100号原稿推敲、呼称を編集人 ③HP制作部、メディア委員会　休会。
○鵠沼松が岡公園愛護会 8日14名 29日臨時活動12名
○藤が谷公園愛護会 5日6名 年末特別活動7名
○ヤングハーツ　4日幹事会、月初練習26(15)名 5ラフターヨガ7(4)名 8日仲東笑話会6(1)名 9日鵠洋児童館クリスマス会12(5)名 10日鵠生園(ホーム)16(10)名 14日藤沢病院クリスマス会16(10)名 20日藤沢病院(さくら棟)13(8)名 24日鵠生園(デイ)18(12)名
○おもちゃの病院　8/22日10(1)/13(1)名 来院14/15名 新患12/12名 退院引2/8件 当日完治5/5件
○子どもと遊ぶ会 鵠洋児童館 21日8(1)名 子供11名 母親3名 「門松作り」
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム15日8(2)名 囲碁同好会2名 保護者8名 子供 将棋8名:囲碁0名
○災害研究部会　6日5名 市気象情報ＨＰ等
○極楽部会　18日10名 漢方質問事項整理
○サロン会 休会
○健康部会 20日11(2) 鵠沼ぶらり散策
○探訪部会　休会
○カラオケ部会　16日9(1)名
○農園部会　8日8名 29日8名
○談話室 18日9名 AI、量子コンピュータ等
○スケッチ部会 19日4(1) 翌年度進め方等
○デジタル情報部会23日13名 Win10,Inet等
○ヤングブラザーズ　13日24(10先生3)名 27日22(8,9先生3) 名　春コン出場できず
○近代史を語る会 12日17 (6) 名　昭和の時代19回
○企業研究部会 9日10(1)名 ナスラック(株)鎌倉工場
○なつかしの名盤愛好会　16日7名
○俳句の部会「似歌会」10日9名 兼題「年の瀬」「手」
○おひる探Q会　5日6(2)名 新部会発足

1月　January

○例会　11日　出席者45名　在籍者56(休会3)名
○行事　極楽部会「漢方と五臓六腑」19日 鵠沼公民館 36(11)名 講師は花房薬局・福島氏
○世話人・委員会 ①世話人会8,29日②くぐひ制作部 8日10名101号第1回編集会議 ③メディア委員会HP制作部　休会
○鵠沼松が岡公園愛護会　12日10名 松葉掃き・積み
○藤が谷公園愛護会　12日9名 大量の松葉、花壇手入れ
○ヤングハーツ　8日幹事会、月初練習23名(14)名 9日ラフターヨガ7(1)名 14日鵠生園(ホーム)20(10)名　17日藤沢病院(さくら棟) 16(10)名 27日NPO亀吉ワインセミナー7(5)名
○おもちゃの病院　12/26日12(1)/11(1)名 来院者17/14名 新患14/11名 退院5/5件 当日完治4/2件
○子どもと遊ぶ会　鵠洋児童館 11日7(1)名 子ども7名 「うぐいす笛作り」
○鵠っ子囲碁・将棋　19日 7(2)名 囲碁同好会2名 子ども 将棋11名 囲碁0名
○災害研究部会　10日7名 河川の防災
○極楽部会19日 ○行事参照
○サロン会 18日20(1)名「おでんの会」参加者数記録更新
○健康部会　7日16(3)名 明治神宮初詣コース
○探訪部会　健康部会と合同
○農園部会　12日7名 土壌整備
○カラオケ部会　20日8名 チャレンジタイム実施
○談話室　15日8名 車のｽﾋﾟｰﾄﾞ対策、雇用保険追加給付
○スケッチ部会　16日3名 年間計画、室内スケッチ
○デジタル情報部会　27日 15名 USB, Li-ion電池
○ヤングブラザーズ　10日新年会23名(9先生3)名 25日20(8先生2)名 練習
○近代史を語る会　9日16(7)名 昭和の時代20回
○企業研究部会　22日6(1)名 豊島屋酒造　利き酒も
○懐かしの名盤愛好会　会場都合で休会
○ 俳句の部会「似歌会」 14日12名 兼題「正月の風景」「柱」23日米倉部会長逝去
○おひる探Q会　9日7(3)+ご招待4名 七草がゆ、おはぎ

2月　February

○例会　1日　出席者42名　在籍者54(休会3)
○行事　①「豆まき大会」ひょっこり鵠南島 1日6名子ども35名親3名スタッフ等15名　②ボウリング大会 12日12(2)名　江ノ島ボウリングセンター
○世話人・委員会　①世話人会 ②くぐひ制作部12日9名　第101号第2回目編集会議 ③ＨＰ制作部、メディア委員会　休会
○鵠沼松が岡公園愛護会 2日13名 清掃＆ベンチ更新
○藤が谷公園愛護会 9日 10(1)名　寒中清掃活動
○ヤングハーツ　5日幹事会・月練習 25(13)名 6日ラフターヨガ7(1)名 11日鵠生園(ホーム)20(8)名 21日藤沢病院(さくら棟)15(10)名 27日鵠生園(デイ) 中止
○おもちゃの病院 9/23日 12(1)/13(2)名 来院18/20名 新患6/12名 退院7/6件 当日完治3/3件
○子どもと遊ぶ会　鵠洋児童館　8日 6名 子ども7名 大人2名 「ぶんぶんごま作り」
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム 17日8(2)名 囲碁同好会2名 子ども 将棋9名 囲碁0名 保護者2名
○災害研究部会 7日10(1)名 講演会等
○極楽部会　19日11名「あなたの人生会議」等
○サロン会 16日12 (1) 名　おでんパーティ
○健康部会　28日13(5)名 滑川河口、華頂博信侯爵邸、荏柄天神社
○探訪部会　休会
○カラオケ部会 17日8(1)名 充実した時間
○農園部会 定例2日 臨時18日 各7名 土壌改良
○談話室 19日8名 保険の比較、修繕関係詐欺等
○スケッチ部会 20日　4(１)名　室内での模写
○デジタル情報部会24日12名　ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ・ﾊﾞﾝｷﾝｸﾞ等
○ヤングブラザーズ　8日23 (9先生3) 名　23日23 (8先生3) 名　大ホールで春コン集中稽古
○近代史を語る会 26日13(6)名　昭和の時代21回目
○企業研究部会27日9名 神奈川県近代美術館 鎌倉別館　関根正二回顧展
○なつかしの名盤愛好会 17日9(2)名
○俳句の部会「似歌会」10日8名 兼題「雪柳」「本」 新部会長細田均
○おひる探Q会　6日7(2) うの花炒り等

シリーズ

我が家の災害対応作戦（その 3）

甘利 紘

30 年前鵠沼に引っ越して来て、海岸から白い富士山と江ノ島の素晴らしい景色を見ながら、ここにも津波が来るのかと思いました。

我が家の地震への備えは、ベッドの脇のバッグに運動靴、懐中電灯、予備電池、携帯ラジオを入れて置く、風呂桶には前の晩の湯を残しておき、古いブルーフレームの石油ストーブとボイラー用タンクに 60 リッター以上の石油、お米は未開封を 5kg、後はキャンプ道具一式くらいです。

大地震で上下水道、電気、ガスが止まっても、怪我してなければ一週間ほどは他人の助けなしで過ごせるのではと思います。

地震の際は電気とガスの元を切り、必要なら運動靴を履き、屋外では電線を踏まないが我が家のルールです。

これを書き終えたら、風呂の残り湯でお米を研ぎ、石油ストーブで炊いて、あり物の缶詰で食事をしてみようと思っています。練習が大切かと。地震だけでなく、富士山の噴火、原発の事故、スーパー台風等、何があってもおかしくないと思います。天災だけでなく人災の最たるもの、戦争も考えなくてはなりませんね。災害の中で唯一体験し恐ろしい思いをしました。

当たり前のように戦争の無い平和の 75 年を過ごして来ましたが、過去を見て、世界を見て、戦争をなくす必要性を感じています。

現在の我が国の平和は戦争を体験した世代の努力の賜物だとしか考えられません。実家では、4 人の兄弟は甲府と松阪に疎開しましたが、私は 5～6 歳で両親と空襲下の東京で過ごし、晴れた日は毎晩来る B-29 の編隊の爆撃で世田谷の防空壕から都心、川崎、立川周辺一帯が燃え上がるのを見ました。町内の成城学園も爆撃され、明日はここも爆撃されるのではないかとの怖さが強烈でした。昼はパイロットの顔が見えるほどの低空で艦載機が飛び、子供にも機銃掃射をしますが、これは全然怖く無く、鬼ごっこと同じでした。

戦後で厳しいのは食糧難、全国的な災害ですね。母の大事な着物がお米に代わった様ですが、5 人兄弟無事に育ててもらいました。終戦後しばらくしたある日、ラジオで“明日の天気”と言ったので驚いて母に報告、母は“戦争の無い時は毎日明日の天気が放送されるのよ”と言われて驚きました。以来今でも“天気予報＝平和”と結びついています。今でも戦争を考えたら地震なんか何でもない！と思っています。

60 年ほど前に“民間防衛”というタイトルのスイス政府発行で原書房が翻訳出版の本を読みましたが中身は驚きの連続でした。平和の国スイスと思っていましたが、内容は明日にも周辺国からの侵略があり得ると云う想定で、戦争が開始されたら 10 日間は政府が食料を供給できないので、常時その分を準備しておくこと、その食料リスト、さらに生活保護家庭の分は政府が準備する、の一言に真剣さを感じました。

次に“戦場になった時、他人の為に役割を持って行動する人は本人の生存率が高い”。本当に生存率が高いかは分かりませんが恐怖感を持たずに行動出来るでしょうね。又かなりのページをデマ、噂、意図的に流される誤った情報に対する注意がありました。この点スマホの時代はもっと混乱がひどいでしょうね。“食料の備蓄”、“役割意識を持って行動”、“デマに注意”この 3 点が今でも記憶に残っています。

この本は最近でも改訂版が出ていてインターネットで見ると、出版当時から内容に賛否両論ありとか、日本では戦争用ではなく、災害用テキストとして人気がある、とありました。

平和な時代の天災は皆が他人の事を考えて行動する事で対応出来るのではないでしょうか。

編集後記　新型コロナウイルスの影響で鵠沼公民館の長期休館等もあり、当クラブの 3 月の部会活動は殆ど中止となったがくぐひ 101 号は何とか発行にこぎつけた。巻頭には奥村世話人代表が「一年を振り返って」を執筆。部会紹介では河村さんが鵠沼松が岡公園愛護会にて製作の「四代目のベンチ」の経緯を、鈴木勝彦さんがスケッチ部会の現状を紹介。岸さんと鈴木実さんが当クラブへ入会前後の状況を「ビフォア・アフター」に投稿。ひょっこり鵠南島の豆まき大会につき塩川が紹介。新入会員紹介欄には佐々木裕一さんと小川隆さんが登場した。久しぶりの旅紀行は小山さんによるアドリア海・エーゲ海クルーズ旅行の紹介。米倉貞敏さんが急逝され、俳句仲間の佐々木黎治さんが追悼文を寄せた。米倉さんに合掌。「私の趣味」には大木さんがスローランニングについて、我が家の災害対応作戦には甘利さんが投稿した。新型コロナウイルス禍は何時おさまるのだろうか。

（塩爺）

会報　くぐひ　第 101 号
2020 年 4 月 1 日
発行 くげぬま探求クラブ
発行人 奥村 誠
編集長 塩川 昌男